

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		アーカスプロジェクト参画事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進		市民協働	実行委員会
予算科目コード		01-100401-02 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 市は負担金を支出し、もりや学びの里の施設を提供して、県，市，関係機関からなる実行委員会（事務局：県）によるアーカスプロジェクトの運営により、アーティストの招へい及び制作支援，活動発表会（レジデンスプログラム）や，一般向け，子ども向けアートイベント（地域プログラム）を開催する。 また，市内イベント活動等の運営や事業広報活動を支援する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
本事業は，世界的に有名になり毎年多くの国から，多くのアーティストの応募があり，有名芸術家への登竜門的な存在になっている。しかし，市民の認知度は低いため，市としては積極的に各種事業をとおしてPRしていく必要がある。	通年： 守谷市のHPにバナーを設置 イベントの前，県，市，事務局でのミーティングを行う。 作品の展示場所を探す。 4月～8月：招聘アーティスト募集・選考 11月： レセプション・オープンスタジオ
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
広報活動の幅を広げる。 市民が興味をもつプログラムやイベントを企画する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	アーカス事業が開始され，四半世紀になり，県は新たな試みとして守谷駅前に通年でアーティストの作品を展示出来る場所を探しており，併せて，守谷市民対象プログラム等が提示されれば，プログラムを企画するため増加も見込まれる。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度の取組（評価、課題への対応）
アーカス事業計画会議やアーカイブスに関する会議を行ったが、どうしてもアート関係者よりのイベントが多くなってしまい、一般市民の参加を図れなかった。	アーティストインレジデンスプログラムで、3人のアーティスト（出身地：日本、イギリス、イタリア）が招聘され、市民に芸術鑑賞やアーティストとの交流の場を提供した。 子どもや市民も参加しやすいワークショップ（ヒビノホスピタルvol.75）を開催した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
事業に参加した市民の数（人）	1, 799. 00	2, 176. 00	1, 515. 00	1, 800. 00	1, 800. 00
	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00	0. 00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	毎年、同じ事業（オープンスタジオ、ヒビノホスピタル等）を継続しているが、市民の認知度はまだまだ低い。誰もが参加しやすく楽しめるよう創意工夫されているが、参加者は減少している。 更なるプロジェクトのPRを継続し、市民にスタジオに足を運んでもらうだけでなく、外部に出張したり、情報発信するなど工夫する必要がある。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	県からは、新たな試みとして、市民の目に触れる場所や人が集まる場所など、アーティストの作品を展示できる場所を探しており、事業拡大の要望があるが、プロジェクトを知らない市民が多いため、市内の他団体等との協力や交流により、芸術に親しむ市民のすそ野を広げる事業を取り入れるなど、「アーカスプロジェクト」の認知度を上げる取組を優先して行う。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	4,500	0	0	0
	一般財源	4,500	0	4,500	4,500	4,500
正職員人工数（時間数）		193.00	124.00	101.00	0.00	0.00
正職員人件費		791	518	414	0	0
トータルコスト		5,291	5,018	4,914	4,500	4,500

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		文化協会補助事業		担当課	生涯学習課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間	昭和52年度～
	施策	生涯学習の推進		種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進		市民協働	補助事業
予算科目コード		01-100401-21 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 補助金を交付して、ふれあい美術展，芸能大会，芸術祭（市と共催），伝統文化・伝統芸能子ども教室，茶道教室，陶器市，スプリングコンサート等の文化協会の活動を助成する。
文化協会結成以前には町主催の文化事業がなく，市民の自主的な生涯学習や個性豊かな文化芸術活動を推進するには，担い手となる文化団体を支援・育成する必要があった。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
術文化の振興を目的に活動する守谷市文化協会の自主的な事業を支援し，市民の交流と芸術文化活動の向上を図ることで，市の活性化を目指す。 文化協会会員の経済的負担を軽減し，文化事業（美術展，音楽会，各種講座など）を継続して実施してもらう。	
（参考）基本事業の目指す姿	
芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供し，市民が芸術や文化を気軽に親しめるようにする。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
文化協会の構成員全体の高齢化が進んでいる。 文化協会の敷居が高いものとなっ てしまい，新たな入会が少ない状態となっている。	4月 総会・大人の踊り教室 5月～ 10月 茶道講座 6月 もりや夢の舞と響，ふれあい美術展，生花展 絵画教室，陶芸初級講座，陶芸ろくろの基礎講座 7月 芸能大会 9月 芸術祭実行委員会 10月 ふれあい茶会・美術展 11月 芸術祭（若い芽のコンサート・芸能祭） 12月 クリスマスコンサート，親子で楽しむ邦楽演奏会 2月 スプリングコンサート 3月 運営委員会
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
文化協会の各部会が体験講座などを実施して，積極的に市民（若い年齢層）にPRしていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	文化協会との共催事業も現年度までの間に削減を続けてきた。現段階ではこれ以上の削減や事業の縮小は難しいと判断しており，削減の余地がない。

H30年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R01年度の振り返り）	
H30年度の評価（課題）	R01年度を取組（評価、課題への対応）
・ 構成会員の高齢化が懸念される。 ・ 現存する部会にこだわらず、若い世代にも支持されやすい部会を作る等門戸を拡げることが大切。	・ 事業の時期や開催場所についての見直し，協議

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
文化協会会員数（人）	580.00	536.00	530.00	530.00	530.00
実施事業数（共催事業を除く）（回）	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	実施事業が、従来通りであり、事業に参加する市民も限られている。 若い世代が関心を持ちにくい事業ではあるが、シルバー世代には人気が高い。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	各事業の開催時期を再検討する。 また、集客の見込めるイオンタウンや市民交流プラザのギャラリーで開催することにより、事業の活性化が見込まれる。				

コストの推移						
項目		H29年度決算	H30年度決算	R01年度決算	R02年度予算	R03年度見込
事業費	計	920	920	920	920	1,265
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	920	920	920	920	1,265
正職員人工数（時間数）		25.00	33.00	5.00	0.00	0.00
正職員人件費		103	138	21	0	0
トータルコスト		1,023	1,058	941	920	1,265